

『地域創生学研究』第5号 特集「新型コロナ感染拡大と地域創生—その影と光」 原稿募集

新型コロナウイルス（COVIT-19）の感染拡大は、私たちの社会に大きな影響をもたらしています。それは大規模災害と似た面をもっており、コロナ禍とも呼ばれています。これは歴史的に見ても大きな事件の一つであるとともに、新たな感染症の世界的な拡大は今後も繰り返して起こってくるでしょう。

そのため、医学的な面のみならず、社会科学領域においても新型コロナ感染拡大の影響に関する研究がなされています。地域創生学の観点からも、今回の新型コロナ感染拡大が私たちの社会や暮らしにどのような影響をもたらしたのか、そして、私たちの社会はどのように対抗していったのかを明らかにすることには大きな意義があると考えます。

そこで今年度の『地域創生学研究』第5号は「コロナ禍と地域創生」を特集テーマとしました。サブタイトルは「その影と光」です。「影」については改めて言うまでも無いでしょう。あらゆる災害がそうであるように、新型コロナ感染拡大によって多くの生命が失われ、人びとの生活は大きな打撃を受けました。まさにコロナ禍です。

その一方で、コロナ禍には「光」の面もあります。まず、それは社会の構造的な問題を照らし出す「光」ともなりえます。災禍は人びとに平等に降りかかるわけではありません。たとえば、今回のコロナ禍で最初に家や仕事を失ったのは社会的に排除されやすい人びとでした。さらに、それは社会的な課題に対応する動きを生み出す契機にもなります。事実、私たちの社会は、コロナ禍に対してさまざまな領域や水準で実践的な対応を行ってきました。新たな学習の仕組みやビジネスモデルが創られたり、新たな生活支援の仕組みが広がったり、そうした支援に多くの寄付が集まったりもしました。そこには情報通信技術の進展も寄与しています。これもコロナ禍の意図せざる「光」となりうるものでしょう。

コロナ禍によって照らし出された地域の問題を明らかにするとともに、それを生活の場から打ち返し、以前よりも暮らしやすい仕組みを創っていく。コロナ禍は地域創生と決して無縁ではありません。理論的な考察はもちろん、現実的な課題に対する仕組みの検証やあるべき社会の構想などが求められています。今年度の『地域創生学研究』でも、研究分野を越え、より広い視点からこうしたテーマについて考えていきたいと思えます。

ご投稿の際は、「投稿規程」をお読みにになり、下記の期日までに「投稿エントリーシート」に必要事項をご記入のうえ、地域創生学群資料室（rd-siryou@kitakyu-u.ac.jp）までメールにてご提出ください。皆様からのご投稿をお待ちしています。

○投稿エントリーシートの提出締切：**2021年9月30日（木）17:00**

○原稿提出締切：**2021年12月16日（木）17:00**

○上記の送付先：**地域創生学群資料室（rd-siryou@kitakyu-u.ac.jp）**

この件での問い合わせ先：学会・研究WG 稲月 正 (inazuki@kitakyu-u.ac.jp)

深谷 裕 (fukaya@kitakyu-u.ac.jp)

※「投稿規定」「投稿エントリーシート」等は地域創生学群 Web サイト

(<https://sousei.kitakyu-u.ac.jp/news/chisoken5/>) からダウンロードしてください。